

PAT-NO: JP02002119166A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002119166 A  
TITLE: FOOD VESSEL FOR DOG  
PUBN-DATE: April 23, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
UMEHARA, KIYOMI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
UMEHARA KIYOMI	N/A

APPL-NO: JP2000366279

APPL-DATE: October 16, 2000

INT-CL (IPC): A01K005/00, A01K029/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a ball-shaped food vessel for a dog that can control the amount of dog food and can develop the tooth-brushing effect.

SOLUTION: The objective food vessel is made rough all over the outer surface, several openings are cut-opened on the vessel and several projections are formed inside the vessel.

COPYRIGHT: (C) 2002, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-119166

(P2002-119166A)

(43) 公開日 平成14年4月23日 (2002.4.23)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

データベース (参考)

A 0 1 K 5/00  
29/00

A 0 1 K 5/00  
29/00

A 2 B 1 0 2

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願2000-366279 (P2000-366279)

(22) 出願日 平成12年10月16日 (2000.10.16)

(71) 出願人 500550854

梅原 清美

神奈川県横浜市泉区下飯田町632-2番地

(72) 発明者 梅原 清美

神奈川県横浜市泉区下飯田町632-2番地

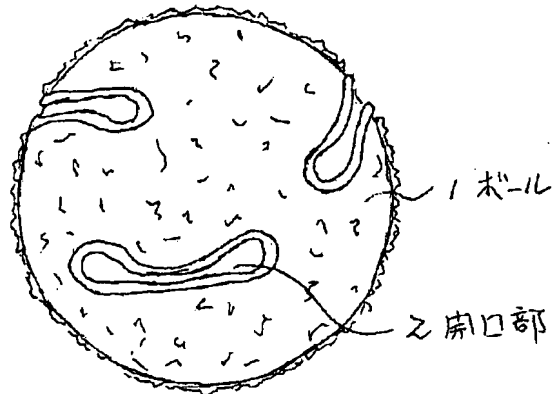
Fターム (参考) 2B102 AA04 AB01

(54) 【発明の名称】 犬用食事容器

(57) 【要約】

【課題】 餌量の調節と、歯みがき効果がある、ボール状の犬用食事容器を提供する。

【解決手段】 外部全体にザラつきを施し、開口部を数箇所設け、内部にも数箇の出張りを付けたことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 表面にザラつきを施し、開口部数箇所を設け、内部にも出張りを数箇所につけた、ボール状の犬用食事容器。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、歯みがきも期待できる、犬用餌容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のボール状の容器は、床で使用する10 と音がうるさく、内部の構造も複雑で、餌も出にくく屑が溜り、外部は洗えるが、内部が洗えない。

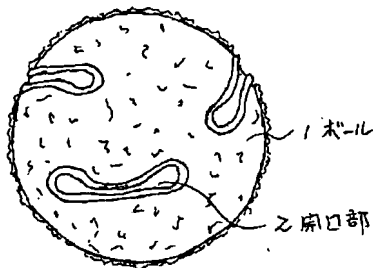
【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のボール状の容器は、構造が複雑なため、餌が出にくく、屑が溜りやすいが、内部を洗うことができない。また材質が硬質材のため、滑りやすく、特に歯みがきを期待するものではない。本発明は、これらの欠点を解決するために、発明されたものである。

【0004】餌容器は、厚さ、3～4ミリの合成ゴム材20 とし、表面全体にザラつきを施し、開口部数箇所を開ける。内部にも出張りを数箇所設ける。本発明は、以上の構成よりなる、犬用食事容器である。

【0005】

【図 1】



【発明実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ) 厚さ3～4ミリで、合成ゴム材のボール状の容器で、表面全体に、ザラつきを施す。

(ロ) 開口部の周囲は、裂けにくくするため厚めの加工にし、それを数箇所開ける。

(ハ) ボールの形状の戻りをよくするため、内部に半球の出張りを数箇所設ける。

【0006】

【発明の効果】この容器の開口部を押し開き、餌を入れ与えると、軽く噛んで中の餌を出して食べるが、餌が無くなっても臭いは残っているため、直ぐに容器を放そうとせず噛みつづける。そのため表面のザラつきで、自然に歯みがきができる。また、容器として使用しないときでも、キャッチボールなどで遊びながらも、歯みがきができる。ボール容器全体も洗らえて清潔である。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の全体図

【図2】本発明の断面図

【符号の説明】

- 1 ボール
- 2 開口部
- 3 出張り部

【図 2】

